

## 多摩ニュータウン巡検

与那嶺 ユ キ

多摩ニュータウンは、多摩・八王子・稲城・町田の4市にまたがる総面積約3千ヘクタール、計画人口約30万人の、わが国最大のニュータウンである。東京への流入人口の増加と核家族化による住宅難の緩和を目的として、昭和40年12月に都市計画が決定した。それ以来、良質な生活環境を備えた新市街地の形成を進める一方、単なるベッドタウンではない、“多機能複合都市”を目指して計画を進めている。

駅から「パルテノン多摩」に続くパルテノン大通り沿いにある上品な建物・ヴァンサンカンに集合、お話をうかがった。その後、バスで住宅・都市整備公団の方に実際に案内していただくことになった。

駅前広場は二層式の形をとり、それぞれのブロックの歩行者動線は「ベデ橋」によって結ばれ、自動車交通とは立体的に分離されている。多摩センター駅周辺に整備されている中心的機能・ニュータウンセンターでは、各種官公庁施設・銀行・大型スーパーストア・複合文化施設（パルテノン多摩）・デパート・ホテル・レジャービル・室内型テーマパークなどが見受けられた。

鶴牧・南野地区に入ると住区となる。道路に部屋の明るい灯りが洩れるようにと工夫された「プラス1住宅」が見られる。唐木田地区の住宅は、一見同じように見えるが、細かい部分の一つ一つのその家の特徴が盛り込まれていた。家の前にある二段式の植え込みが美しかった。

ライブ長池地区の京王堀之内駅は色とりどりのモダンな雰囲気であった。駅前のショッピングセンターから伸びるデザインの擬ったエスカレーターを登ると、カラフルな丸ビル・斜行エレベーター・バス停などが見渡せる。駅から上を通過

（道路を通らず）住宅へ行ける工夫がなされていた。そこを通り過ぎ、ベルコリーヌ南大沢地区に入る。南欧風のレンガ造りの家々が建ち並び、異国の雰囲気漂う。よくドラマのロケ地に選ばれる大変きれいな所だ。共有空間をうまく確保するため、建物の配置が工夫されている。水・緑もうまく配置されていて、自然（人工的に創られたものであるが）との調和も重視しているという印象を受けた。

戦争中に陸軍がつくった戦車道路に出ると、まだ舗装されていない道があり、そこを通ると一本杉公園に出た。右手（南側）に雑木林があり、北側に野球場・テニスコートが見られる。入居が最も古い永山地区では地味な建物が目立った。今、建て直しを検討しているそうである。

その後、東へ移動、向陽台に向かう。カメをデザインした時計が置いてあったり、四つ角の石の円形ベンチも印象的だった。

それぞれの住区に、日常生活に必要な日用品店舗、サービス店舗、スーパーマーケット、診療所、警察官派出所、郵便局を設けている。また、中学校1校、小学校2校を設けることが原則となっている。公園や緑地は、できるだけ自然の緑を取り入れ、恵まれた多摩の自然を生かす努力がなされている。こうした“多機能複合都市”づくりは、多摩ニュータウンがひとつの自立した町として成立することを目的としているだけでなく、多摩地域全体の自立化をめざしているのである。広大な土地をうまく利用して、東京にはない“居心地のよい空間”を追求し、研究して欲しいと思う。

(10月27日 千歳教官指導)